

# 平成 31 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(国語)

## □平成 30 年度入試との問題・設問構成比較

**見た目の 4 大問構成は変わらず。配点や内容には変更あり。**

大問 1 が小説、大問 2 が説明文、大問 3 に古典、大問 4 に読み取りからの作文。構成は昨年と変化ありません。古典に「漢文」が登場したのが今回最大のトピックです。歴史的仮名遣いなくなり、代わりに書き下し文が登場しました。漢字が 6 問に増えました。「熟語の構成」という文法要素の強い問題が昨年に引き続き出ています。今年は記述問題の配点が大きくなっています。作文の文字数が 250 語、配点が 1 点増加されました。作文に手が出せるかが 1 つのポイントです。

## □平成 30 年度入試との難易度比較

**難易度は昨年並みも、記述力の低い受験生には難問。**

小説の題材が「菊池寛」の文章でした。書くべき文章がとても長いので、ここに時間を使ってしまう恐れがあります。今年も「人物像を読み取る問題」が出題されています。説明文には理系の内容が出題され、専門用語が多く登場するので、読みにくかったかもしれません。今年も論の進め方についての問題が出てきます。漢文は見慣れなかった分、正答率は下がる可能性があります。作文には、資料ではなく、落語「初天神」を読み取って落語の楽しさを伝えるもの。初見の受験生にとっては苦しい問題が続きます。難易度は昨年よりアップ。平均点は昨年の 23.5 点よりも下がると考えられます。

## □平成 32 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

**毎日なにかを「書く」訓練。**

大問 1 にある「問題文から登場人物の人物像を考える」問題、大問 2 にある「問題文の主張をまとめる」問題、大問 4 の「作文」で、配点の 4 割を占めます。資料を見てわかること・自分の考えを書く訓練は、普段からきちんと積んでおきます。これは、どの教科のどの単元よりも時間がかかります。ここから逃げてしまうと、国語の点数は取れません。少ない時間でもいいので、毎日なにか「書く」訓練をして、まずは記述の苦手意識をなくすことから始めましょう。

# 平成 31 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(社会)

## □平成 30 年度入試との問題・設問構成比較

### 4 大問構成は変わらず。相変わらず記述がほとんど。

大問 1 が日本地理（東北地方）を中心とした問題、大問 2 が外国との関わりについての歴史の問題、大問 3 に国連を中心とした公民の問題、大問 4 に世界とのつながりについての総合問題の 4 題構成。記述問題が多いのは昨年と変わりませんが、少し暗記系記述が増えた印象です。相変わらずグラフや資料が多く登場します。社会の用語の知識と、資料を読み取る力、どちらも要求する難問です。

## □平成 30 年度入試との難易度比較

### 昨年よりもやや難易度は上がったか。

昨年よりも知識問題と暗記すれば書ける「暗記系記述」が増えました。とはいえ、知識さえあれば解けるわけではなく、資料を読めれば解けるものでもありません。「なぜそうなるのか」という理由について考える問題が多いです。資料を読み取り、覚えた知識を導き出し、それをうまく文章にする、という 3 段階の力が身についたかどうかを問う問題。過去問を訓練している受験生にとってはあまり苦しむことはないでしょう。暗記系記述が少なかった昨年に比べると、難易度は少し下がり。平均点は 18.0 点より上昇するとみえます。

## □平成 32 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

### 用語暗記と用語の意味の確認。

社会は「単純な用語暗記」では得点が取れない入試問題です。それゆえ、用語の暗記は軽視されがちです。しかしながら、選択問題にしても、記述問題にしても、その用語を暗記しておかなければ、使うことができず得点には至りません。今すぐ行えることとしては、今まで習った重要用語のチェックです。一問一答形式の問題をたくさん解いて確認しましょう。

# 平成 31 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(数学)

## □平成 30 年度入試との問題・設問構成比較

大問構成は同じ。内容には変更あり。

大問 1 が計算 4 問と小問集合 4 問。大問 2 が図形問題、グラフ問題、説明問題の 3 問。大問 3 が活用系の総合問題です。大問 4 に図形の証明問題が登場しました。今回は平行四辺形の証明問題でした。大問 5 は図形の大型問題。大問 6 に関数のグラフ応用問題が登場しました。問題の順番に変化があり、途中過程を記述するように指定されています。

## □平成 30 年度入試との難易度比較

解きやすい問題と解きにくい問題の二極化。上位校は高得点勝負の可能性

大問 1 の計算・小問集合は基本的な問題なので、ここは落とせません。大問 2 以降に少し複雑な「引っかけやすい」問題が複数あります。大問 3～6 に、数学の根本理解が必要な問題がちらほら出題されています。途中過程を記述する分、部分点が考えられること、および前半の問題が解きやすくなっているため、今年の平均点は昨年よりやや上昇する可能性が高いと思われます。

## □平成 32 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

計算と一問一答に足をすくわれない力。

説明の記述をする問題やグラフの問題、活用型の問題が採用されて以降、どうしても対策はそちらを意識したくなります。ただ、「1 年後にある入試」という視点から考えると、今やっておくことはそちらではなく、「大問 1・2 の対策」です。問題が難しくなればなるほど、基本的な問題をいかに落とさずに得点できるかがカギになります。計算問題はミスなくこなせますか？教科書の問題は解けますか？これをまず再確認しましょう。

# 平成 31 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(理科)

## □平成 30 年度入試との問題・設問構成比較

分野の順番は変更も問題形式は昨年と変わらず。

昨年と同じ 4 つの大問で、それぞれの分野に対応した問題でした。大問 1 に化学分野（状態変化中心の問題）、大問 2 が生物分野中心（植物に関する問題）、大問 3 には物理分野（電流のはたらきに関する問題）、大問 4 に地学分野（天体に関する問題）の順番で構成されました。昨年より記号問題が多少増えたものの、記述型の問題が多いのは変わらない特徴です。

## □平成 30 年度入試との難易度比較

昨年より易しくなり平均点は上昇と予想

相変わらず記述問題が多いです。結果の考察、追加の実験などを説明する問題や、グラフを使って質量パーセント濃度を求めるなど、暗記だけでは対応できないタイプの問題も多く出題されています。一方で、いわゆる「暗記系の記述」が昨年より多い印象です。したがって、昨年よりも「手が出ない」問題は減っていて、得点は取りやすいと考えられます。平均点は昨年の 19.1 点より上がり、20 点台を回復しそうな感じがします。

## □平成 32 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

実験・観察に関する「よくある」問題を把握

「実験・観察」が提示されて解くタイプの問題が多いです。見た目が日常生活に関係がありそうな問題でも、よく読み解くと見たことのある実験や観察に行き着きます。それぞれの実験・観察には、よく聞かれる「パターンに沿った」問題があります。今すぐ行ってほしいのは、定期テストや実力テストなどで出題されたパターンをすべて洗い出し、確認しておくことが大事です。パターンに外れた問題は、夏休み以降確認したいところですね。